

1. 概要

- 5月17日～19日ユネスコとドイツ政府の主催で「**ESDに関するユネスコ世界会議**」が開催(オンライン)。
(161か国から閣僚級70名を含む約2,800人が参加)
- 同会議は、SDGs達成に向けて、我が国が主導してきたESDの新たな国際枠組み「ESD for 2030」の開始に当たり開催されたもの。
- 17日の閣僚級パネルディスカッションには、ESD提唱国として、日本から萩生田文部科学大臣が出席。
我が国のESDの取組として、
 - ①ESDの理念を公式に学校教育の中に位置付けていること、
 - ②関係省庁が連携しオールジャパンでESDを推進していること、
 - ③学校と地域が連携し地域課題の解決に繋げていること、などを紹介。



ESDに関する議論を行う萩生田大臣とモロッコのアハヌワ女王

2. 成果文書

- 会議最終日の19日に、本会議の成果文書として、「**ESDに関するベルリン宣言**」が採択。

<「ESDに関するベルリン宣言の概要」>

- ・2030年に向けて、SDGsの全ての目標達成の鍵であるESDを推進していくことを確認
- ・ユネスコスクールなどユネスコが有するネットワークや資源の活用
- ・第26回国連気候変動枠組条約締約国会議(COP26)などの重要な契機を見据えて、本宣言の内容を実現



ドイツ・カーリチェク
教育研究大臣

萩生田文部科学大臣

ユネスコ・ジャンニーニ
教育担当事務局長補



ケニア・ルト教育副大臣

スリナム・リーヴェンス
教育科学文化大臣

UAE・アル・ハンマーディ
教育大臣

各国大臣とのパネルディスカッション